

## 1. 事業の必要性・概要

東日本大震災における巨大津波は、藻場、干潟等の湾内に生息する生物の産卵・生息場を壊滅的に破壊し、さらに海底地形・底質が大きく変化することで、生物の増殖にとって重要な湾内の栄養塩の循環機構も震災前と大きく変貌している。特に閉鎖性海域では、その地形的特徴から大きな影響が考えられる。

住民の生活と産業が海と深く関わって成り立つこれらの地域では、こうした機能を回復させない限り、以前の豊かな生態系には戻らず、被災地の復興も進まない。被災地の復興を図るためには、森・川・海の連環を取り戻すことも含めて、豊かな海の回復が不可欠である。

このため、現地調査結果等により優先度が高いと判断される海域を対象に、里海づくり（人の手による環境再生）や適正な栄養塩管理の手法など、地域に応じた具体的な復興対策を検討し、これらを盛り込んだ「里海復興プラン」の策定を行い、被災地の豊かな海の再生を図る。

## 2. 事業計画（事業内容）

### （1）現地詳細調査、ヒアリングの実施

対象海域における現地詳細調査、情報収集等を実施し、被害状況や里海として復興するために必要な内容の整理を行う。

また、地元関係者等へのヒアリングにより、対象海域に対して地域が望む姿、復興の方向性等を検討するための情報を整理する。

### （2）里海復興プランの策定

現地調査やヒアリングの結果をもとに、地域住民、自治体、関係団体等との調整の場として設置する協議会の活用により地域の意向を反映させ、短期間で実現可能な里海復興の方針・方策、活動の枠組みについて検討し、「里海復興プラン」を策定する。

## 3. 施策の効果

被災地の閉鎖性海域において、早期に自然浄化機能の回復などの具体的な対策を検討、講じることにより、大規模赤潮の発生や魚介類の大量へい死、悪臭等の被災地の復興に支障となる障害の発生を未然に防止し、豊かな海を回復することができる。

# 豊かさを実感できる海の再生事業

## ～里海復興支援事業～

### 震災前の沿岸海域

#### 里海

- 水産資源の基盤
- 希少生物の宝庫
- 人々の暮らしと直結



### 震災後の沿岸海域

## 甚大な被害

早期に自然浄化機能等の回復を図らなければ、さらに大規模赤潮、魚介類の大量へい死、悪臭等の障害発生のおそれ！

### 被災地には 17の閉鎖性海域

優先度の  
高い海域

23年度～被害状況の詳細把握～

### 被災地の 閉鎖性海域モニタリング調査

- ・水質、底質の状況
- ・底生生物等の生息状況
- ・アマモ場等の存在、消失状況
- ・震災前の状況との比較 など



まずは…

- ☆ 復興に向けた現地詳細調査
- ☆ 関係者ヒアリング
- ☆ 活動の枠組み作り

## 里海復興プラン

地域の声を反映、実現可能性を考慮

- 目指す姿、目標
- 里海復興の具体的内容
  - ・ アマモ場等の再生
  - ・ 住民参加の清掃、保全活動
  - ・ 適正な物質循環の管理方策の策定 など
- 役割分担
- 取組みスケジュール
- モニタリング項目、体制

24年度

策定！

### 里海復興協議会（仮称）

検討、関係者調整の場  
として設置

学識者

地域住民

地域  
自治体

地域  
関係団体



地元自治体  
住民、関係団体



プラン実行！

**豊かな海の再生 = 被災地の復興**